

JICA 開発大学院連携プログラム（各大学におけるプログラム）概要

| | |
|--------------------|--|
| 大学名 | 広島大学 |
| 研究科名 | 大学院人間社会科学部 国際平和共生プログラム、国際経済開発プログラム、国際教育開発プログラム 大学院先進理工系科学研究科 理工学融合プログラム |
| 研究科の特色 | （国際平和共生プログラム） https://www.hiroshima-u.ac.jp/gshs/senkougakui/jinbunshakai/kokusaiheiwakyouiseip （国際経済開発プログラム） https://www.hiroshima-u.ac.jp/gshs/senkougakui/jinbunshakai/kokusaikizaikaihatsup （国際教育開発プログラム） https://www.hiroshima-u.ac.jp/gshs/senkougakui/kyouikukagakusenkou/kokusaikyouikukaihatsup （理工学融合プログラム） https://www.hiroshima-u.ac.jp/adse/div_adse/program#p14 |
| プログラム概要 | 本プログラムは SDGs に対応する課題解決をミッションに位置づけ、その具体化のために各科目では日本の近代化の経験（成功と失敗）の貴重な事例を学ぶことを通じて、学生が自国の持つ課題や強みを分析的にとらえることができる能力を育成する。 |
| 「日本の開発経験に関する講義」の概要 | <p>（必修科目）</p> <p>「<u>Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace</u>」 「<u>Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health</u>」 （全学の大学院共通科目）</p> <p>経済・産業・平和構築・教育分野における日本の近代化の中での成功と失敗、ドナーとしての開発支援の豊富な経験、さらには現代の高齢化社会や地方の過疎化など新たな問題にも触れていく。</p> <p>（選択必修科目）</p> <p>「<u>公共経済論／Public Economics</u>」 ミクロ経済理論を使って経済発展の中で起こる様々なイシューを分析していく。経済における政府と市場の役割に焦点をあてつつ、失敗や成功の歴史的事例を取り上げながら日本経済の独特の発展を概観する。</p> <p>「<u>Environmental Management</u>」 日本の経済発展の過程における環境問題解決の経験を法規制、経済対策、技術開発、教育、能力形成などの包括的な視点から理解する。</p> <p>「<u>Peace and Co-existence A</u>」「<u>Peace and Co-existence B</u>」 外交、安全保障政策等も含め戦後の日本における復興と民主化の過程について、平和</p> |

| | |
|------------------------|--|
| | <p>構築の視点から学ぶ。これにより、平和な社会を作るための制度や原則について議論し、知識を深める。</p> <p>「日本の教育開発経験／History of Japanese Educational Development」 日本の近代化および開発支援において「人づくり」は大きなテーマであったが、ここでは教育を通してその特徴を理解する。さらに、現在の教育、教育開発支援の課題について、他国の事例も参照し理解を深める。</p> |
| <p>関連 URL</p> | <p>(国際平和共生 P) https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/syllabusHtml/2022_E50106.html (国際経済開発 P) https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/syllabusHtml/2022_E50107.html (国際教育開発 P) https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/syllabusHtml/2022_E50204.html (理工学融合 P) https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/syllabusHtml/2022_E90114.html</p> |
| <p>プログラムの 魅力紹介</p> | <p><受講生の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本の経験を通じて多くのことを学んだ。また、自分の国の状況を授業の中やグループ・ディスカッションを通じて議論することもできた。 ○日本の途上国における開発経験について、多様な分野から理解することができた。自分の専門分野以外の視点から開発の方法について理解を深めることができる。 ○健全な社会の構築に向けた、長い発展の歴史を学ぶことができ、興味深かった。本講義は、自分の母国の文脈において、どのような分野で発展・開発が必要か、その主要なアイデアを提供してくれた。 ○本講義を受講したおかげで、日本の歴史、経済、文化を学び、特に日本という国がこれまでに経験してきた成功や失敗を学ぶことができた。本講義を通じて学んだ知識を、母国において、よりよい環境を築いていくために応用することができると考える。 |